

[シラス]

1. 経年経過及び平成15年7～8月期の漁況の経過

【西薩海域，志布志湾海域】

バッチ網漁業の漁獲量は，西薩海域では平成11年の6,060トン进行ピークに減少傾向を示しており，平成13年は2,696トン，平成14年は1,106トンでした。志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示しており，平成13年は736トン，平成14年は396トンでした。

今期は西薩海域でカタクチイワシシラス主体で269トンの水揚げで，前年の145%及び平年の59%でした。志布志湾海域では，カタクチシラス主体で332トンの水揚げで，前年の332%及び平年の202%でした。

2. 平成15年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は，カタクチシラスでしょう。来遊量は，西薩海域は，前年を上回り，平年を下回るでしょう。志布志湾海域は，前年・平年を上回るでしょう。

(根拠)

主対象のカタクチシラスは，親魚の来遊が前年同期と比べ好調であります。特に太平洋側では，親魚の来遊状況が高水準であるため，志布志湾海域では好調に推移するものと考えられます。ただし志布志湾海域は，黒潮の影響が強いため，黒潮の流路等の海況の変化により，今後の漁況が左右される可能性があります。

なお，マイワシシラスは，親魚資源が全国的に低水準であり，資源回復の兆候がみられないことから，まとまった来遊は期待できないと考えられます。

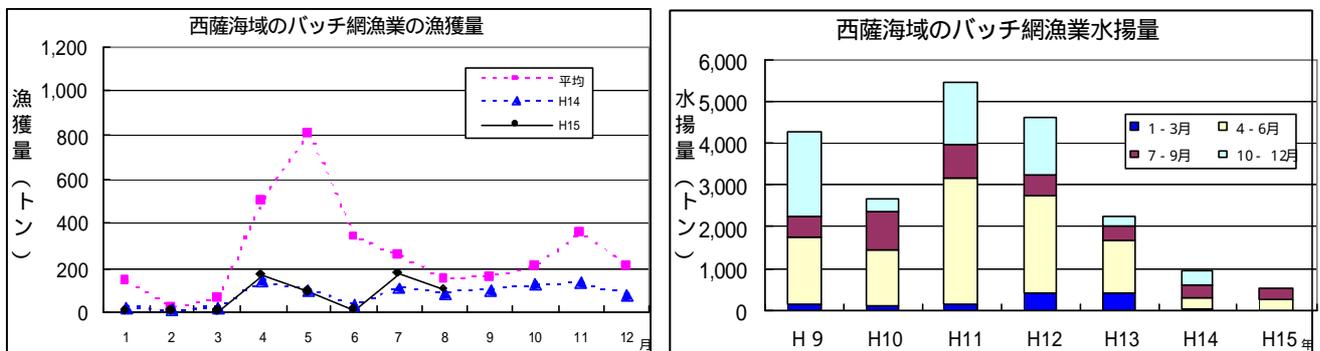


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(5漁協計)

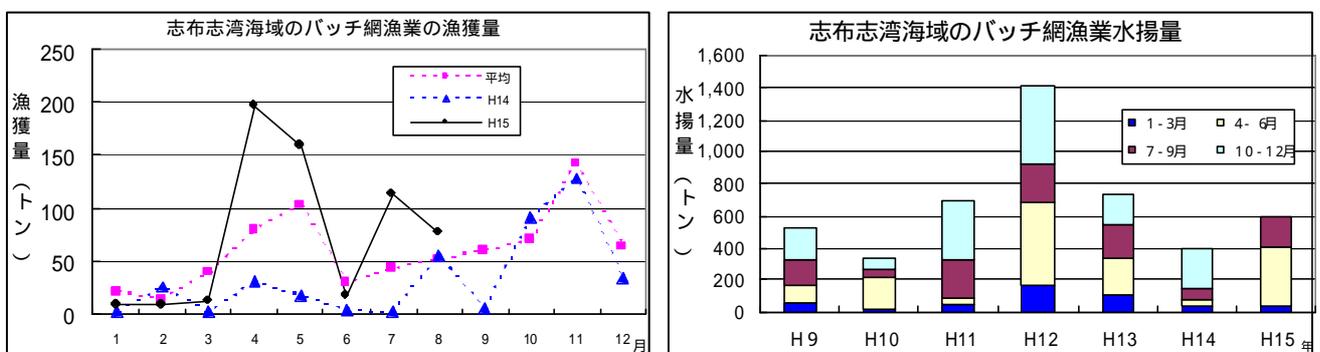


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成10～14年)の平均値，平成15年8月までの水揚量を使用。